

「幼子と共に」 5月号

はじめに

幼稚園の新年度が開始し、早くも1カ月が経ちました。子どもたちも、徐々に、それぞれのペースで、新しい幼稚園生活に慣れてきた様子が見受けられます。

5月や6月は、子どもたちにも疲れが出てくる時期であり、更に、連休もあるため、少し、不安定になるお子様もいるかもしれません。けれど、この成長過程における、「行ったり来たり」が、とても大切です。成長したり、戻ったりを繰り返しながら、それぞれの子どものペースに合わせて、子どもは成長していくものです。だからこそ、教育や子育ては信じて待つことが大切なのです。

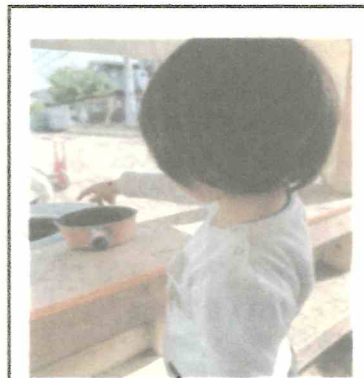
まだやってたんや!?

さて、4月の中旬のことではありますが、年少さんの男の子と一緒に、園庭で遊んでいました。その子は、鍋に砂を入れて、ヘラでかき混ぜていました。恐らく、何かの料理を作っていたようです。

しばらく、鍋の中身をかき混ぜていると、突然、立ち上がり、ジャングルジムで遊び始めました。「あれ?もう終わりなのかな?」と思いましたが、ひとしきりジャングルジムで遊ぶと、再び、戻って、鍋の中身をのぞき込みました。そして、一言・・・
「よし!焼き上がった!」

ジャングルジムで遊び始めたのは、遊びを終わらしたからではなく、料理を焼いている間の空き時間だったようです(^▽^)/

大人の価値観から言うならば、不思議に見える行動でも、子どもには意味があるのかもしれません。出しゃばなしのオモチャにも、もしかしたら、



お鍋の中身は、クッキーでした。スタッフがおしく頂きましたw

子どもなりの意味があるのかもしれませんが。子どもの遊びには、子どもなりの意味や定義があり、実は、結構考えながら、遊びを組み立てているんだなぁと感じました。

勿論、お片付けをさせることも大切です。けれど、少し、様子を見ることで、子どもたちの素敵な世界観の中に、私たちも入れてもらえるかもしれません(^▽^)

エピソード

私は、子どもの頃から、越谷教会に通っていました。教会で歌う讃美歌の中に、「主我を愛す」という讃美歌があるのですが、この讃美歌を歌うたびに、「アイスだって!」と喜んでいました。

また「まぶねの中に」という讃美歌の中には、「たくみの家に人となりて」(「たくみ」とは「大工」のこと)という歌詞があり、イエス様が、「私の家」で「人」となったのだと勘違いしていたようです。

その他にも、私の教会の知り合いは、「襲い来るライオン捕らえ!」という聖書に登場するダビデさんの讃美歌の歌詞を「襲い来るライオン、虎へ!」だと勘違いし、「神様すげー」と喜んでいました。

意味を正確に理解していなくても、子どもなりに、讃美歌を楽しむことはできるのかもしれない。

讃美歌は、私たちによって行われる「祈り」のようなものです。そして、「祈り」は、神様との交わりに飛び込むようなもの。子どもたちは、ごどもたちなりに、ありのままに、神様との交わりを楽しんでいるのかもしれません。

まだまだ、言語能力に関しては、未発達な部分の多い幼児期ではありますが、語るにしても、聞くにしても、言葉に触れることが面白い、楽しい、という気持ちを持って頂けるように、私自身も、やさしく、たのしく子どもたちに語りかけ、しっかりと耳を傾けていけたらと思うこの頃です。

2023年5月1日

園長 須賀 工